

【同窓会報告】

山緑会(36回生)が開催されました！

金尾 啓右

平成 25 年 5 月 14 日(火)・15 日(水)の両日にわたって、兵庫県有馬温泉「エキシブ有馬離宮」にて山緑会が開催されました。



参加者: 山田勝彦先生(来賓)、織田倉忠、佐野晃誠、高木 一、遠山博久、山崎眞義夫妻、湯ノ口武司、吉村正己、鷲頭 徹、金尾啓右夫妻 12名

山田先生をお迎えして定刻前に全員集合、早速有馬山を遠望する温泉に直行して、旅の疲れを癒した後、幹事室に集合。佐野幹事の挨拶後、進行役金尾の発声で物故者のご冥福をお祈り致しました。(本年の物故者はおりませんでした。先年中本一夫君が亡くなっておられた:ご家族からの連絡)

記念写真撮影後、今回の目玉スピーチ: 山崎眞義君(北斗理研 KK 社長)から、「ダム堆砂と海岸浸食」についてのご講演を拝聴いたしました。講演後至極真面目な質疑応答が行われました。その後、正装してイタリア料理「リストラ・マレット」にてビール、ワイン、焼酎などを交えての本格的なイタリア料理に舌鼓を打ち、和やかに歓談しました。

晩餐会終了後、幹事室での二次会に移り、各人が卒業後半世紀を超えるそれぞれの人生を振り返り、深夜まで語り合ったのであります。特筆すべきは、湯ノ口君著「まさか！おれが癌かよ」についても真剣に討論、誰しもが必ず到達する人生の終焉について、各自思いを馳せたのであります。

講演要約:「ダム堆砂と海岸浸食」

我が国は山がちで雨の多いのが特徴です。降った雨はすぐに平野に流れ込み、海に流れてしまいます。このため大雨が降れば洪水になり、降らなければ水不足になります。これらを軽減するのがダムの役割です。しかし川にダムが出来て、川から流れ出る砂が少なくなると、ダムでは堆砂が、海では海岸浸食が始まると考えられています。現在これが大きな問題を引き起こしています。

近年(平成 10 年頃)ダム堆砂と海岸浸食の問題を考える際には、山地から海岸まで見渡した「総合土砂管理」が必要との、国土交通省の提言がありました。ダムに砂をためず海岸まで砂を流す試み、ダムにたまった砂(堆砂)を川の流れと共に海岸まで運ぶバイパストンネルの試みが行われるようになりました。まだ工事中で実現はしていませんが、解決されて行くものと確信しております。

その際に洪水時の濃度(SS)と粒度分布を同時に、かつ瞬間に連続測定出来ないかと、平成 17 年から開発に取り組み、この程机上での完成にたどり着きました。これから河川の現地テストを繰り返し完成させたいと思っています。

これによりどんな砂と量がダムにたまり、どんな砂が海岸までたどり着くのかの検証用に利用して頂きたいと考えています。

以上